

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

「渡島西部圏域」は、北海道南部渡島総合振興局管内のうち松前町を有する西部に位置しており、第1種漁港7港、第2種漁港1港、第3種漁港1港、第4種漁港2港、地方港湾1港を有している。松前町と松前さくら漁業協同組合の取組みとしては、ホッケ、ウニ、ナマコなどの畜養やクロマグロとイカ釣り漁業が盛んである。

圏域内では、複数の漁業協同組合が存在していたが、その後繰り返し合併を行い、平成6年度に現在の1つに統合されるなど、経営基盤の強化が進んでいる。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

主たる漁業種類は、刺し網漁業、イカ釣り漁業であり、その他コンブ養殖漁業、採貝藻漁業等が営まれている。

圏域内における属地陸揚量は約1千900ト、属地陸揚金額は約10億円（令和元年港勢調査）である。

また、ウニ、ナマコについては、漁港機能集約・分担により生じた水域を新たな増殖場として活用し資源量の増大を図っている。

③ 水産物の流通・加工の状況

当圏域内は1つの産地市場を有し、第3種江良漁港が存在する。江良漁港で集荷後、道内の函館向けに主に鮮魚形態で出荷している。地元加工品としては松前漬けがブランド化している。

④ 養殖業の状況

当圏域内ではコンブの種苗生産施設が整備されており、コンブ養殖漁業の生産拡大の役割を担っている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

令和元年港勢調査によれば、当圏域の漁業経営体数は309戸、組合員数は342人となっており、経営体数と組合員数が近接している。また、平成27年と比較する

と漁業経営体数は93%、組合員数は97%とそれぞれ減少している。

⑥ 水産業の発展のための取組

松前マグロの品質管理と流通・販路の改善により、漁価単価の向上を目標としている。また、つくり育てる漁業（畜養・養殖）を推進して、漁業経営の安定化を図っている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

当圏域内では、港内泊地に畜養施設を整備している漁港が多数あるが、台風や低気圧による時化時に被害を受けているため、越波・静穏度対策が必要である。

また、陸揚げ岸壁の耐震性能の強化等により大規模災害発生時の漁業活動の早期再開が可能となるような整備や老朽化の著しい漁港施設の機能保全対策が必要である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当該圏域では既に漁港機能の集約化が進められており、特段の将来的な構想は無い。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由； イカ・マグロ類をブランド化していき、水産物の生産供給の強化を図る。
② 圏域範囲	松前町の範囲	設定理由； 同一魚種や漁業種類で統一の沿岸資源管理等に取り組んでいる。
③ 流通拠点漁港	該当無し	設定理由；
④ 生産拠点漁港	1) 原口漁港 2) 江良漁港 3) 清部漁港 4) 茂草漁港 5) 静浦漁港 6) 札前漁港 7) 館浜漁港 8) 大沢朝日漁港 9) 白神漁港 10) 大島漁港 11) 小島漁港	設定理由； 1)～9) は地先に優れた漁場を有し、イカ釣り漁業等の漁船漁業の拠点として圏域内水産業の振興上重要な役割を担っている。 2) 4) は貯氷施設を有し、準備機能の中心的役割を担っている。 5) は漁船以外の船舟へ漁港施設を開放しており、交流・6次産業機能の中心的役割を担っている。 10)～11) は離島に位置する4種漁

		港であり、周辺に優れた漁場を有するほか、操業時や災害時の避難港として重要な役割を担っている。
⑤ 輸出拠点漁港	該当無し	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(ト)	1, 920	圏域の登録漁船隻数(隻)	633
圏域の総漁港数	11	圏域内での輸取出扱量(ト)	0
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1		

⑥「養殖生産拠点地域」について

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	該当無し
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	該当無し
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(ト)	該当無し
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	該当無し

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

当該圏域内の主要魚種であるクロマグロについて、鮮度保持等による付加価値向上・安定化を目指すため、地域で統一した魚体処理の徹底や消費地市場関係者からの意見を参考に魚体処理方法の改善を進めている。

また、圏域における漁港の集出荷機能の集約として2箇所にあった製氷著用施設を1箇所に集約し、氷の供給コストの削減と低温管理の徹底を図っている。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

海洋環境の変化による主要魚種の漁獲低迷が顕在化してきており、持続可能な漁業生産を確保するため、漁港区域内での畜養・増養殖と連携した漁港整備を推進する。

また、水産生物の生活史に配慮した広域的な水産環境の整備を行い、環境変化

に対応した漁業生産力の強化を図る。

②災害リスクへの対応力強化

大規模災害発生時に、漁業活動の早期再開が可能となるよう防災機能の強化を図る必要がある。

また、冬季を中心に外かく施設からの越波が頻繁に発生しており、休憩漁船や漁具資材等に被害が生じていることから、対策が必要である。

当圏域については、老朽化の著しい漁港が多数あり、機能保全事業により予防保全型の老朽化対策を行っている。

(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

当圏域内では、漁港機能の集約・分担により生じた港内泊地を新たな増養殖場として活用することで、所得の向上を図っている。

また、大沢朝日（朝日）漁港では、PB等漁船以外の船舶へ漁港施設を開放しており、地域の活性化に取り組んでいるため、連携した漁港整備を推進する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

多様な担い手の活躍を推進するため、就労環境や生活環境の改善に繋がる漁港整備を推進する。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1)産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
江良	流通機能強化	直轄	江良	3	

屋根付き岸壁の整備による衛生管理対策や防波堤整備による港内静穏度対策などの漁業作業環境を改善することにより生産・流通機能の強化を図る。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
北海道津軽海峡	環境変化、資源管理	水産環境整備事業

生活史を考慮して、ソイ類などの育成、生息の場となる中層～沖合にかけての岩礁性施設を整備し、海域全体の生産力の向上を図る。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
江良	予防保全	直轄	江良	3	
原口	予防保全	機能保全	原口	1	
清部	予防保全	機能保全	清部	1	
茂草	予防保全	機能保全	茂草	1	
札前	予防保全	機能保全	札前	1	
静浦	予防保全	機能保全	静浦	1	
大沢朝日	予防保全	機能保全	大沢朝日	1	
白神	予防保全	機能保全	白神	1	
大島	安全・安心	直轄	大島	4	

陸揚げ岸壁の耐震性能の強化等により大規模災害発生後における水産業の早期再開を可能とする体制を構築する。

漁港施設の老朽化や破損状況を把握し、予防保全型の対策を行うことで漁業環境の安全確保を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

「2. 圏域における水産基盤の基本方針」のとおり。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
江良	流通機能強化	直轄	江良	3	

屋根付き岸壁の整備による漁港施設の就労環境を改善し、多様な担い手の確保を図る。

4. 環境への配慮事項

当圏域内では、漁港内を結ぶ道路前面に浅い岩礁地帯が広がっている地区がある

が、そこは、自然と親しむ遊び場となっている反面、荒天時は越波によって道路の冠水や土砂堆積が発生していることから、越波を防止し道路の常時輸送機能を確保する護岸の整備を行うにあたっては、親水性を持たせるなど環境にも配慮した整備を実施する。

5. 水産物流通圏域図

別紙のとおり

北海道渡島総合振興局水産物流通圏域図

渡島噴火湾北部圏域 流通拠点(一般)型
 流通拠点：②八雲漁港
 圏域総陸揚量：12,117トン
 圏域総陸揚金額：42億円
 漁港6港(7地区)、港湾0港
 〈養殖生産〉
 圏域養殖総生産量：10,408トン
 圏域海面養殖業総産出額：33億円
 主要養殖魚種：ホタテガイ

渡島噴火湾中部圏域 流通拠点(一般)型
 流通拠点：②落部漁港
 圏域総陸揚量：7,660トン
 圏域総陸揚金額：20億円
 漁港2港(4地区)、港湾0港
 〈養殖生産〉
 圏域養殖総生産量：3,897トン
 圏域海面養殖業総産出額：10億円
 主要養殖魚種：ホタテガイ

渡島噴火湾南部圏域 流通拠点(一般)型
 流通拠点：③砂原漁港
 圏域総陸揚量：20,054トン
 圏域総陸揚金額：37億円
 漁港6港、港湾1港
 〈養殖生産〉
 圏域養殖総生産量：3,095トン
 圏域海面養殖業総産出額：8億円
 主要養殖魚種：ホタテガイ

渡島北部圏域 流通拠点(一般)型
 流通拠点：②鹿部漁港
 圏域総陸揚量：9,736トン
 圏域総陸揚金額：24億円
 漁港2港(3地区)、港湾0港
 〈養殖生産〉
 圏域養殖総生産量：3,274トン
 圏域海面養殖業総産出額：10億円
 主要養殖魚種：ホタテガイ

渡島東部圏域 流通拠点(一般)型
 流通拠点：③臼尻漁港
 圏域総陸揚量：40,726トン
 圏域総陸揚金額：75億円
 漁港6港(10地区)、港湾0港
 〈養殖生産〉
 圏域養殖総生産量：11,552トン
 圏域海面養殖業総産出額：40億円
 主要養殖魚種：コンブ類

渡島中部圏域 生産力向上型
 圏域総陸揚量：15,147トン
 圏域総陸揚金額：62億円
 漁港21港(30地区)、港湾2港
 〈養殖生産〉
 圏域養殖総生産量：6,462トン
 圏域海面養殖業総産出額：19億円
 主要養殖魚種：コンブ類

渡島西部圏域 生産力向上型
 圏域総陸揚量：1,920トン
 圏域総陸揚金額：10億円
 漁港9港(11地区)、港湾1港

出荷凡例詳細

50t未満	→
50～100 t	→
100～500 t	→
500～1000 t	→
1000～5000 t	→
5000t以上	→

●：流通拠点漁港(うち流通・輸出拠点漁港)

◎：生産拠点漁港(うち流通・輸出拠点漁港)

○：一般漁港

■：港湾(漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)

☆：産地市場

漁業：主な魚種
 (主な漁業種が、(大漁) (巻き網・底引き網等。))
 (丸網、刺網、曳網、魚籠、魚網)

←：水産物集約(漁船陸揚場)

←：水産物集約(陸送)

→：加工場・消費地への出荷
 (主な出荷先として、圏域内(城内)、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等ができる限り示す。)

←：養殖に係る水産物の流れ

■：養殖漁場



④小島漁港

